

第2章 石川県の水産業を取り巻く状況

1 漁場の特徴と主な漁法

本県は、日本海に大きく突き出た能登半島を有し、日本列島の中央に位置しています。また、海岸線は、遠浅の砂浜域が広がる加賀海域、岩礁域が広がる能登外浦海域、急深な能登内浦海域、一年を通じて静穏な七尾湾など変化に富んでいます。

表層には日本海を北上する対馬暖流が流れ、水深 300 メートル以深には冷たく栄養塩に富んだ日本海固有水が存在しており、それぞれの漁場環境を生かした多種多様な漁業が営まれています。

◆石川県沿岸の海域区分

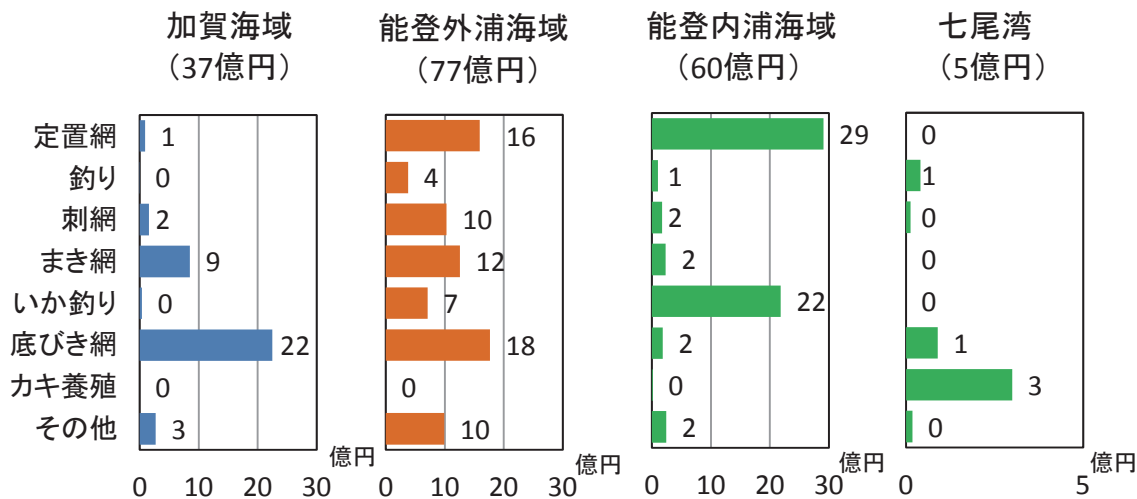


◆石川県周辺の海流模式図



加賀海域は、ズワイガニやアマエビ、カレイ類などが生息する砂泥域が広がり、底びき網漁業が発達しています。能登外浦海域は、岩礁や離島が点在する複雑な海底地形が特徴であり、底びき網漁業、刺網漁業、釣り漁業、定置網漁業、まき網漁業、海女漁など、多種多様な漁法が発達しています。能登内浦海域は、急深なことからブリなどの回遊魚が岸近くまで来遊するため、定置網漁業が発達しているほか、小木港は沖合いか釣り漁業の基地となっています。七尾湾は、波静かで小河川が多く流れ込み栄養塩が豊富なため、日本海側で最大の養殖カキの産地となっており、内湾に生息するナマコなどを漁獲する底びき網漁業も発達しています。

◆石川県沿岸の海域別生産額 (H27)

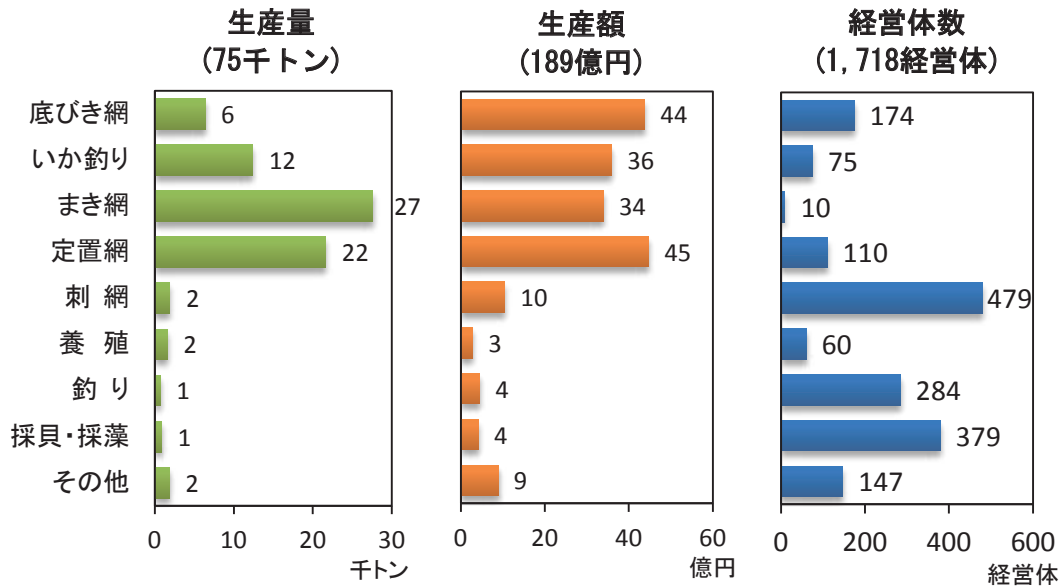


資料：石川県水産総合センター調べ
(カキ養殖についてはH25の値)

本県では、底びき網漁業、いか釣り漁業、まき網漁業、定置網漁業が基幹漁業となっており、平成25年にはこの4つの漁法で生産量の91%、生産額の84%を占めています。

このほか、刺網漁業、釣り漁業、海女漁などが営まれており、これらの漁法は零細な個人経営体が主体で、経営体数の79%を占めています。

◆漁法別の生産量、生産額、経営体数(H25)



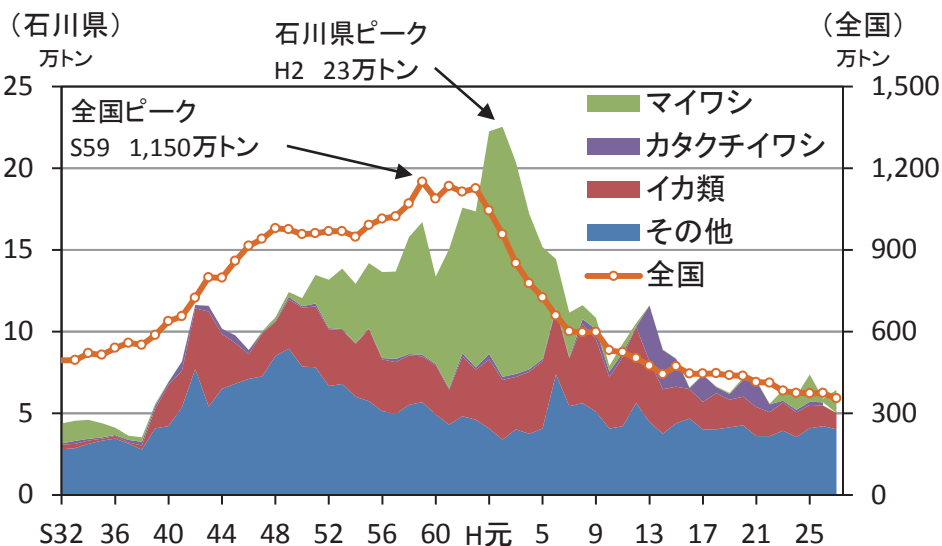
資料：農林水産省「2013 漁業センサス」
(生産額は石川県水産総合センター統計より推定)

2 漁業生産量の推移

本県では、昭和40年代に入り、漁労技術の進歩などを背景に沖合や海外の漁場開拓に取り組み、いか釣り漁業、大中型まき網漁業、遠洋底びき網漁業などの生産量が急増しました。昭和50年代以降は遠洋漁業からの撤退が続きましたが、マイワシが豊漁期を迎えたことから、平成2年の海面漁業の生産量は過去最高の23万トンを記録しました。その後はマイワシ資源の減少に加え、経営体数の減少などにより、生産量は急減しましたが、平成17年以降は概ね6万トン前後で安定して推移しています。

平成27年の石川県海面漁業生産量は6.6万トンで、全国シェア1.9%、都道府県別生産量で全国17位となっています。(42ページ参照)

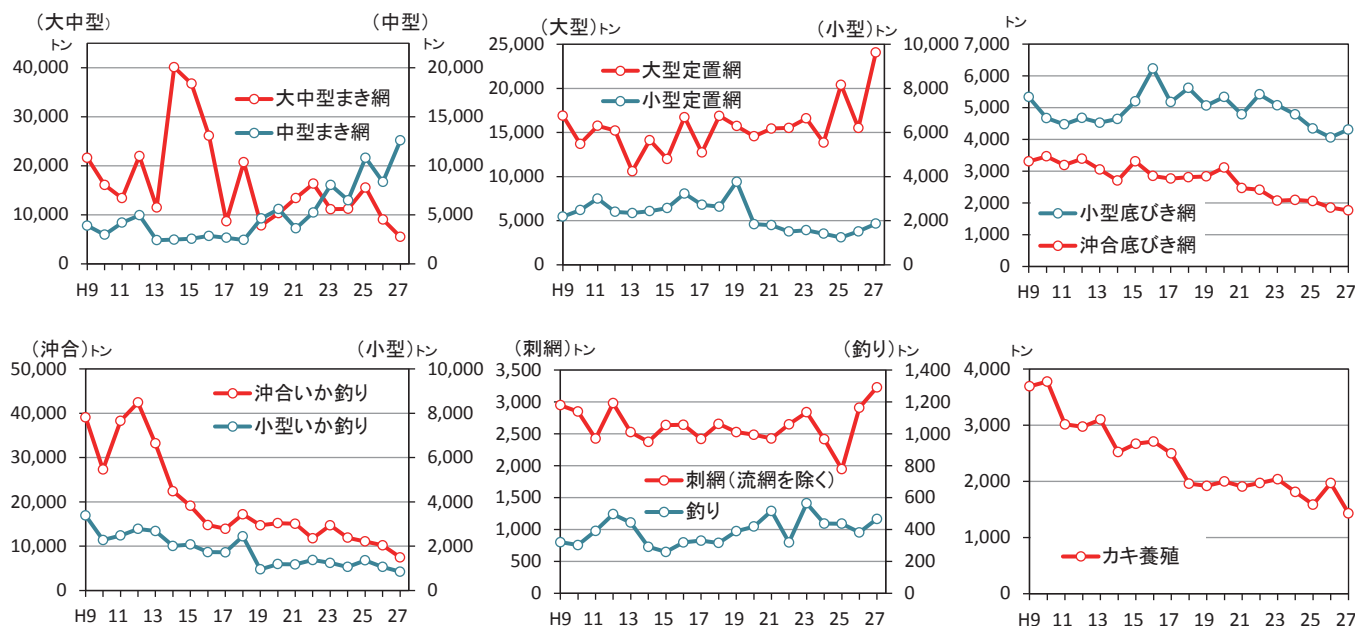
◆本県の海面漁業生産量の長期的な推移



資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報」

また、平成9年以降の生産量の推移を漁法別に見ると、中型まき網漁業、大型定置網漁業では増加傾向、刺網漁業、釣り漁業では横ばい傾向にありますが、これ以外の漁業では減少傾向にあります。

◆漁法別生産量の推移



資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報」

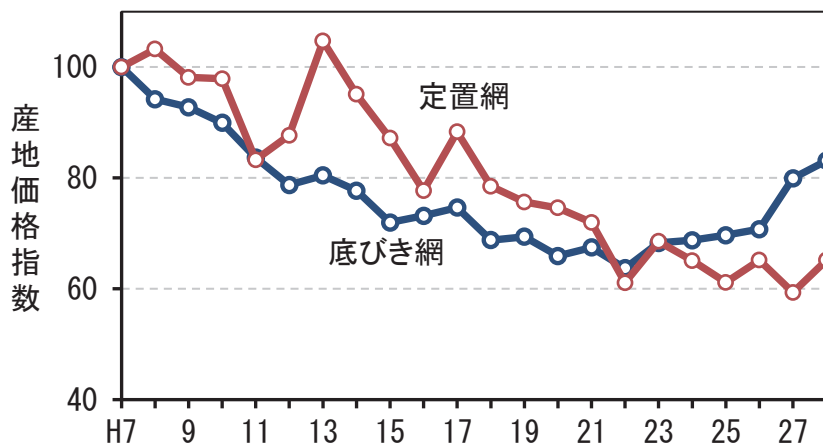
3 産地における価格の動向

県内で水揚げされた水産物の産地価格は、水揚量の増減などの影響を受け年により変動しますが、平成7年以降について長期的な推移を見ると近年は総じて低い水準にあります。

底びき網漁業については、平成22年頃まで低下傾向が続き、その後は平成7年の約7割の水準で推移していましたが、平成27年以降は上昇に転じています。定置網漁業については、平成22年頃まで低下傾向が続き、その後は平成7年の約6割から7割の水準で推移しています。

北陸新幹線金沢開業以降、県産水産物の需要が増加していることなどから、底びき網漁業では平成27年以降に大部分の魚種で価格が上昇しており、特にズワイガニ、ノドグロ（アカムツ）、ガスエビ（トゲザコエビほか）などでは2割以上の上昇となっています。一方、定置網漁業では明確な価格の上昇傾向は見られていません。

◆県内産地市場における価格の推移



資料：石川県水産総合センター調べ

(産地価格指数は、金額上位40銘柄の単価を平均水揚重量で重みづけした値の合計 (H7を100としている。))

4 経営体の動向

本県の漁業経営体数は、平成15年の2,442経営体から平成25年には1,718経営体へと、10年間で70%に減少しています。漁法別では、小型底びき網漁業、小型いか釣り漁業、小型定置網漁業、刺網漁業などの沿岸漁業で大きく減少しています。

販売金額別では、5,000万円以上の経営体数が横ばいで推移していますが、5,000万円未満ではすべての階層で減少しています。

◆漁法別経営体数の推移

漁法	単位：経営体			
	H15	H20	H25	(H25/H15)
沖合底びき網	20	19	15	75%
小型底びき網	236	211	159	67%
沖合いか釣り	20	17	16	80%
小型いか釣り	89	53	59	66%
大中型まき網	2	2	2	100%
中型まき網	6	6	6	100%
大型定置網	41	30	29	71%
小型定置網	145	114	81	56%
刺網	815	717	479	59%
釣り	301	321	284	94%
採貝・採藻	492	437	379	77%
カキ養殖	82	72	57	70%
その他の漁業	193	190	152	79%
計	2,442	2,189	1,718	70%

資料：農林水産省「2013年漁業センサス」

◆販売金額別経営体数の推移

販売金額	単位：経営体			
	H15	H20	H25	(H25/H15)
100万円未満	1,174	1,125	868	74%
100～500万円	732	573	484	66%
500～1,000万円	233	204	146	63%
1,000～2,000万円	129	125	86	67%
2,000～5,000万円	95	77	54	57%
5,000万円～1億円	34	35	37	109%
1億円以上	45	50	43	96%
計	2,442	2,189	1,718	70%

資料：農林水産省「2013年漁業センサス」

また、平成15年から平成25年までの10年間で、一経営体当たりの生産量は148%に増加しています。特に、ブリやマイワシの漁獲量が増加傾向にあることから、これらを主な漁獲対象とする中型まき網漁業や大型定置網漁業で大きく増加しています。一方、沖合底びき網漁業、沖合いか釣り漁業、小型定置網漁業では減少傾向にあります。

◆一経営体当たり生産量の推移

漁法	単位：トン			
	H15	H20	H25	(H25/H15)
沖合底びき網	166	164	140	85%
小型底びき網	22	25	27	123%
沖合いか釣り	955	893	694	73%
小型いか釣り	23	22	24	102%
大中型まき網	-	-	-	-
中型まき網	426	912	1,807	424%
大型定置網	293	486	703	240%
小型定置網	18	16	15	84%
刺網	3	3	4	123%
釣り	2	2	2	142%
採貝・採藻	3	3	2	74%
カキ養殖	33	28	28	85%
その他の漁業	10	11	13	130%
計	23	25	34	148%

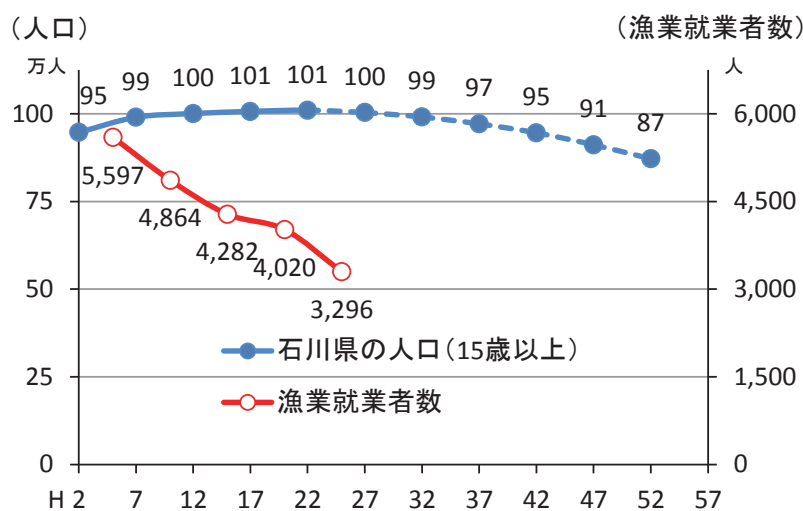
資料：農林水産省「2013年漁業センサス」

5 漁業就業者数の動向

本県の海面漁業・養殖業の漁業就業者数は、平成15年の4,282人から平成25年の3,296人へと、10年間で約23%減少しています。石川県の人口（15歳以上）は、平成22年から平成27年間に減少に転じており、これから平成37年までにさらに約3.9万人が減少すると予測されており、漁業就業者の確保は一層厳しくなると見込まれます。

漁業就業者のうち、65歳以上の高齢者は1,474名で、全体の45%を占めています。高齢者の割合を市町別で見ると、穴水町が72%で最も高く、次いで、珠洲市54%、能登町49%の順となっており、特に能登地区で高齢化が深刻な状況となっています。

◆本県の漁業就業者数と人口（15歳以上）の推移

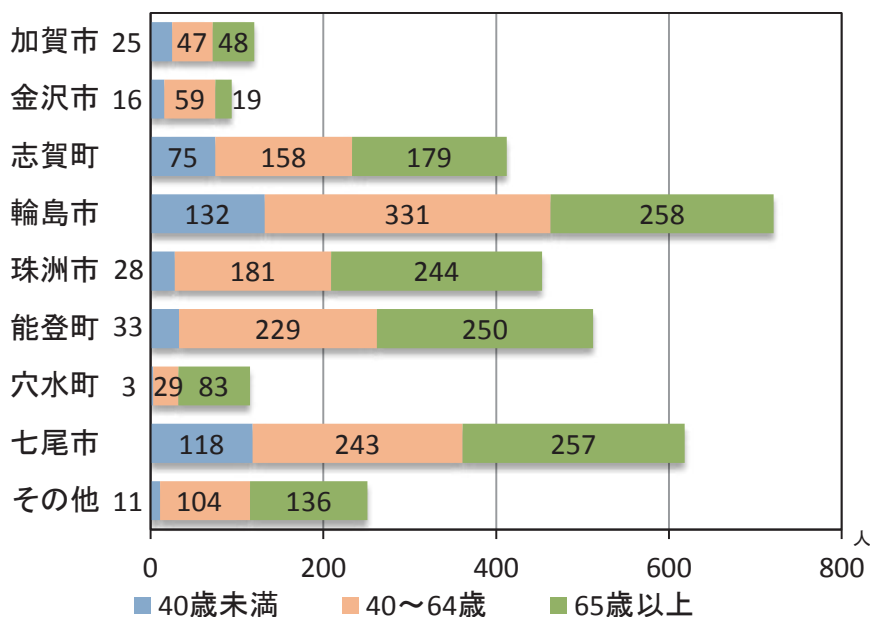


資料：総務省「国勢調査」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

石川県「2013年漁業センサス」

◆市町別の漁業就業者数と年齢構成(H25)



資料：石川県「2013年漁業センサス」

6 漁船隻数の動向

本県における動力漁船隻数は平成28年で4,251隻となっており、過去10年間で70%に減少しています。漁船の規模を示すトン数階層別に見ると、10～19トン階層では94%で概ね隻数が維持されているものの、9.9トン以下では69%、20トン以上の階層では48%と大きく減少しています。

また、現在登録されている漁船の進水年別隻数を見ると、昭和55年に進水した船が226隻で最も多く残っており、平成12年までは各年100隻以上となっていますが、平成20年以降に進水した漁船は20隻以下の低い水準となっています。FRP（繊維強化プラスチック）製漁船の耐用年数は一般的に30年程度といわれていますが、現在使用されている漁船の50%は進水から30年以上が経過しています。

◆規模（トン数階層）別の動力漁船隻数の推移

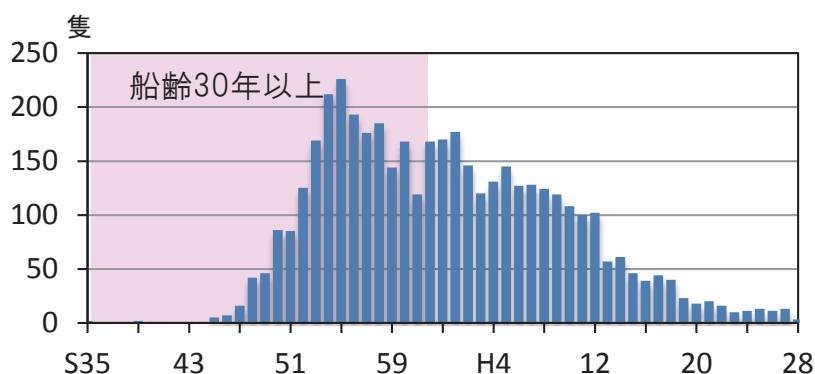
年	合計	0.0～ 4.9トン	5.0～ 9.9トン	10.0～ 19.9トン	20.0～ 49.9トン	50.0～ 99.9トン	100.0～ 199.9トン	200トン～
H18	6,087	5,604	284	145	10	6	32	6
H19	5,903	5,429	280	140	10	6	32	6
H20	5,682	5,214	276	141	8	6	31	6
H21	5,494	5,031	273	140	8	6	30	6
H22	5,263	4,811	267	136	7	6	30	6
H23	5,147	4,705	263	135	4	6	30	4
H24	5,006	4,570	255	137	4	6	30	4
H25	4,774	4,346	247	137	4	6	30	4
H26	4,611	4,194	244	137	3	5	26	2
H27	4,457	4,049	241	137	0	5	22	3
H28	4,251	3,849	239	137	0	5	18	3
(H28/H18)	70%	69%	84%	94%	0%	83%	56%	50%

69%

48%

資料：石川県「石川県漁船統計総覧」

◆漁船の進水年別隻数（H28.4時点）



資料：石川県水産課調べ